

新設クラブ

一般質問

計画の方向性は？

「元氣都市西条」

問

市民が主体となった健康づくりをよりいっそう推進・発展していくために第2次西条市健康づくり計画「元氣都市西条」を策定しているが、計画の基本理念と基本的な方向性について、どのように定めているのか。

また、ラジオ体操やウォーキングによる健康づくりについて、どのように推進しているのか。

答

「元氣都市西条」の基本理念として、「共に支えあい、健康で幸せな暮らしの実感できるまち 西条」をスローガンに掲げ、全ての市民がともに支えあいながら、ライフステージに応じて、健康やかで心豊かに生活できる活

力ある社会の実現を目指すこととしている。

基本的な方向としては、健康寿命の延伸、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、社会環境の整備、生活習慣の改善の5つを設定し、健康づくり施策を展開していくこととしている。

ラジオ体操で始める健康づくり推進事業は、平成27年度から開始しており、5人以上のグループで登録し、実施することによってスタンプを押すというポイント制を採っている。

この制度により、市民が健康への関心を高め、生活習慣病予防や介護予防につなげるとともに、コミュニティの強化



地区ラジオ体操巡回指導の様子

や地域の活性化を図ることを目指しており、現在は20グループ、369人が登録している。

なお、平成28年8月には、玉津地区と丹原地区で小学生のラジオ体操会に合わせた地区ラジオ体操巡回指導を開催し地域全体へ正しいラジオ体操の普及を図ったところであり、これからも地区別の巡回指導を全市に広めていきたい。

また、平成26年度からNHKテレビ・ラジオ体操の講師を迎えて、ラジオ体操講座を開催しており、手軽に体力づくりができるラジオ体操の積極的な普及に努めている。

ウォーキングで健康づくり推進事業は、四国、九州、北海道、本州の各コース一周に相当する距離を歩くことによってコース達成となるもので、それぞれの達成者には認定証及び記念品を贈呈しており、自分自身のために実行する以外に一定の目標を設定し達成することで、継続への励みになると考えている。合併以後、延べ403名のコース達成者がいるが、近年、高齢化とともに達成者が減少傾向にあり、今後はより幅広い世代の参加を

促す必要があると考えている。

ウォーキングは、健康づくりの第一歩として誰もが気軽に取り組める軽運動であり、生活習慣病予防にも高い効果があることから、公民館や保健センターでのウォーキングマップなどの配布をはじめ、広報紙やホームページなどを積極的に活用し、一人でも多くの市民に参加してもらえよう周知啓発に努めたい。

ふるさと納税の

寄附状況と収支は？

問

ふるさと納税は、寄附をしたかたが住む自治体の個人住民税が軽減されるため、税収が減る自治体が増加し、一部の自治体では赤字となっている。本市は、プロモーションビデオによるPRやクレジット決済の導入、更には返礼品の充実など、さまざまな施策によって多くのかたに制度を活用し応援しているが、ふるさと納税寄附金の受け入れ状況は、どのようになっているのか。

また、本市の市民が他の自治体に寄附することで、どの程

度の減収となっているのか。

答

本市におけるふるさと納税寄附金の件数と金額は、平成26年度が336件で814万2千円、平成27年度が1万2千169件で4億9千374万3千812円、平成28年度が7月末現在、千461件で6千271万2千1円となっている。また、市民がふるさと納税を行ったことで控除を受けた金額は、平成26年が159人で343万7千円、平成27年が564人で2千182万4千円となっている。なお、ふるさと納税の謝礼品などで発生した経費は、平成26年度が173万6千780円、平成27年度が2億5千150万4千402円であった。以上のことから、寄附があった年度で収支を積算すると、平成26年度が296万8千220円、平成27年度が2億2千41万5千410円の黒字となっている。

ふるさと納税寄附金制度は、貴重な財源を確保でき、特産品などの謝礼によって地域経済の活性化が図られるなど、地方都市にとって有用な制度であり、今後も制度の趣旨に基づき、ふるさと納税の推進にいつそう努めたい。